

Economic Indicators

発表日:2018年9月28日(金)

消費者物価指数(東京都区部・2018年9月)

～CPIコアが+1%に。9月の全国でも+1%の可能性大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴(Tel:03-5221-4528)

(単位:%)

| | | 全国 | | | | | 東京都区部 | | | | |
|----|-----|-----|--------|---------------------|------------------|------|-------|--------|---------------------|------------------|------|
| | | 総合 | 生鮮除く総合 | 食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合 | 生鮮食品及びエネルギーを除く総合 | 石油製品 | 総合 | 生鮮除く総合 | 食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合 | 生鮮食品及びエネルギーを除く総合 | 石油製品 |
| | | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 | 前年比 |
| 17 | 1月 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | 9.2 | 0.1 | ▲0.3 | 0.0 | 0.1 | 11.7 |
| | 2月 | 0.3 | 0.2 | ▲0.1 | 0.1 | 13.2 | ▲0.3 | ▲0.3 | ▲0.1 | 0.0 | 14.4 |
| | 3月 | 0.2 | 0.2 | ▲0.3 | ▲0.1 | 16.2 | ▲0.4 | ▲0.4 | ▲0.4 | ▲0.2 | 19.7 |
| | 4月 | 0.4 | 0.3 | ▲0.3 | ▲0.0 | 12.8 | ▲0.1 | ▲0.1 | ▲0.4 | ▲0.1 | 14.3 |
| | 5月 | 0.4 | 0.4 | ▲0.2 | 0.0 | 11.2 | 0.1 | 0.1 | ▲0.2 | 0.0 | 11.6 |
| | 6月 | 0.4 | 0.4 | ▲0.2 | 0.0 | 6.6 | 0.1 | 0.0 | ▲0.4 | ▲0.2 | 7.1 |
| | 7月 | 0.4 | 0.5 | ▲0.1 | 0.1 | 6.6 | 0.2 | 0.2 | ▲0.3 | ▲0.1 | 8.1 |
| | 8月 | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 0.2 | 7.6 | 0.5 | 0.4 | ▲0.1 | 0.0 | 9.6 |
| | 9月 | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 0.2 | 7.2 | 0.5 | 0.5 | ▲0.1 | 0.0 | 8.3 |
| | 10月 | 0.2 | 0.8 | 0.0 | 0.2 | 9.4 | ▲0.1 | 0.6 | 0.0 | 0.1 | 10.6 |
| | 11月 | 0.6 | 0.9 | 0.1 | 0.3 | 10.1 | 0.3 | 0.6 | 0.1 | 0.2 | 11.4 |
| | 12月 | 1.0 | 0.9 | 0.1 | 0.3 | 9.0 | 1.0 | 0.8 | 0.2 | 0.4 | 9.9 |
| 18 | 1月 | 1.4 | 0.9 | 0.1 | 0.4 | 7.3 | 1.3 | 0.7 | 0.3 | 0.4 | 8.8 |
| | 2月 | 1.5 | 1.0 | 0.3 | 0.5 | 9.2 | 1.4 | 0.9 | 0.4 | 0.5 | 10.7 |
| | 3月 | 1.1 | 0.9 | 0.3 | 0.5 | 7.0 | 1.0 | 0.8 | 0.4 | 0.5 | 7.6 |
| | 4月 | 0.6 | 0.7 | 0.1 | 0.4 | 7.0 | 0.5 | 0.6 | 0.3 | 0.3 | 7.2 |
| | 5月 | 0.7 | 0.7 | 0.1 | 0.3 | 9.1 | 0.4 | 0.5 | 0.1 | 0.2 | 11.0 |
| | 6月 | 0.7 | 0.8 | 0.0 | 0.2 | 13.6 | 0.6 | 0.7 | 0.3 | 0.4 | 15.7 |
| | 7月 | 0.9 | 0.8 | 0.0 | 0.3 | 14.3 | 0.9 | 0.8 | 0.4 | 0.5 | 15.7 |
| | 8月 | 1.3 | 0.9 | 0.2 | 0.4 | 13.9 | 1.2 | 0.9 | 0.5 | 0.6 | 15.4 |
| | 9月 | - | - | - | - | - | 1.3 | 1.0 | 0.5 | 0.7 | 16.3 |

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○コアが前年比+1%乗せ、コアコアも改善

総務省から発表された18年9月の東京都区部消費者物価指数(生鮮食品除く)は前年比+1.0%となった。上昇率は前月から0.1%Pt拡大し、事前の市場予想の+0.9%をやや上回る結果となっている。エネルギー価格が前月から伸びを高めたことに加え、エネルギー以外の部分も食料品などを中心に前月から伸び率が拡大したことで、CPIコアは(消費税の影響を除けば)2014年4月以来の+1%乗せとなっている。

○エネルギー価格が上振れ

エネルギー価格は前年比+6.4%と、前月の+5.8%から伸びが高まった(前年比寄与度:8月+0.30%Pt → 9月+0.33%Pt)。原油等の燃料価格上昇の影響を受けて、ガソリン等の石油製品、電気・ガス代とも前月から上昇率が拡大している。先行きについても、エネルギー価格の高止まりは続きそうだ。原油価格は一時期足踏み状態となっていたが、足元では再び上昇しており、為替レートも

円安傾向で推移している。原油価格の動向を敏感に反映する石油製品価格については、昨年10月以降の上昇率が高かったため、前年の裏の関係で18年10月以降は前年比の上昇率が明確に鈍化する可能性が高いとみていたが、足元の状況を踏まえると、しばらくは前年比でも目立った鈍化が生じない可能性が出てきた。また、電気・ガス代については過去の燃料費価格上昇の影響が遅れて出る形で当面は上昇率が緩やかに拡大する可能性が高い。このように、足元の原油高の影響を受け、エネルギー価格の動向は従来予想していたよりも上振れそうな状況である。当面、エネルギー価格は前年比で高止まりもしくは若干の上昇率拡大といった形の推移になりそうで、エネルギー価格が明確に鈍化するのには19年春以降に持ち越される形になる。この点は、目先のCPIの下支え材料である。

○エネルギー以外も改善したが、基調は強くない

除く生鮮食品・エネルギー（日銀版コアコア）は前年比+0.7%（8月：+0.6%）と、4ヶ月連続で上昇率が拡大した。4、5月には2ヶ月連続で予想外に鈍化し、弱い動きとなっていたが、6月以降は緩やかに持ち直す形になっている。内訳では、8月に一時的に大きく上昇していた宿泊料が鈍化した一方で、外国パック旅行や家賃、被服及び履物、食料品（生鮮除く）といったところが上振れている。宿泊料の鈍化は予想通りだったが、その他の品目が予想外に上昇したことで、コアコアも上昇率が拡大している。

日銀版コアコアの上昇率が4ヶ月連続で拡大したことが好材料であることは確かである。ただ、上昇ペースは引き続き鈍いことに加え、今月押し上げ要因となった家賃や被服及び履物は、最近東京都区部と全国とで異なる動きをすることも多い。個人消費に力強さが欠けること等を背景として、値上げに対する企業の慎重姿勢が引き続き根強いことを考えると、日銀版コアコアの先行きについて強気になることは難しい。エネルギー価格が高止まる一方、エネルギー以外は伸び悩みという構図に変化はみられていないとみるべきだろう。

○野菜価格の上昇が個人消費に悪影響

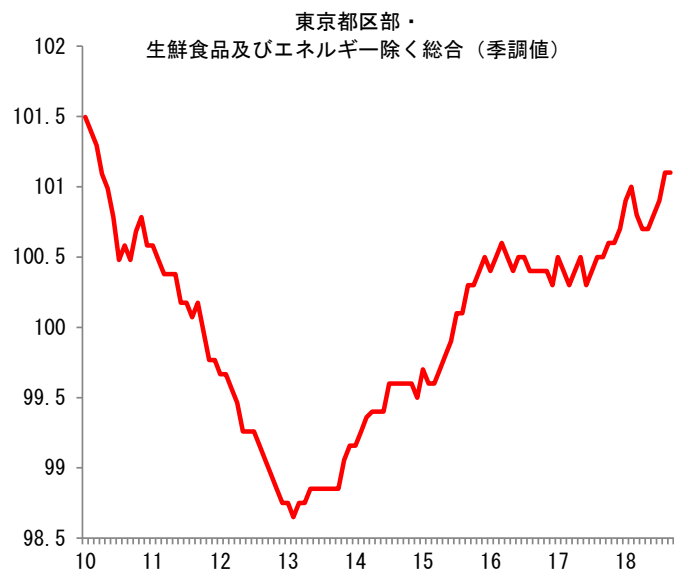
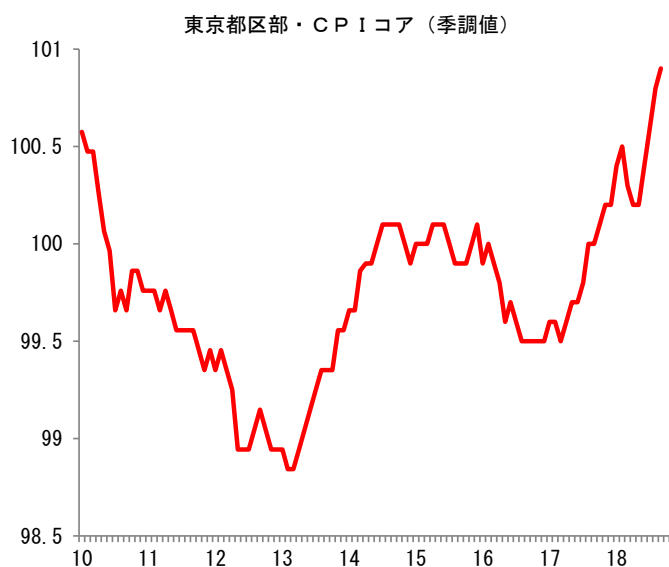
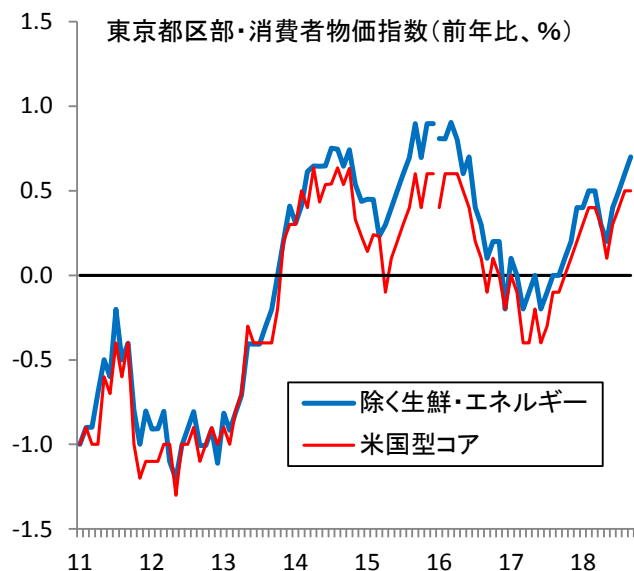
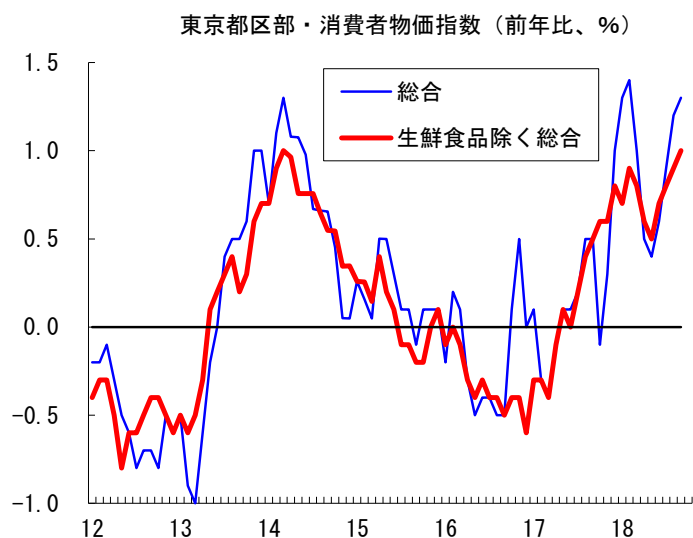
CPI総合でみると9月は前年比+1.3%（8月：+1.2%）となった。生鮮食品価格の高止まり（8月：前年比+8.9% → 9月：+8.2%）を受けて、CPIコア以上の高い伸びが続いている。猛暑の影響で7、8月に高騰していた野菜価格については、暑過ぎる夏が終わることで9月には落ち着くと期待されていたが、9月上旬に台風や地震といった自然災害が発生したことにより再び悪影響を受けており、依然として価格は高止まっている。

なお、CPI総合を季節調整値でみると、7-9月期は前期比+0.8%（4-6月期：▲0.6%）となっている。生鮮食品価格の急上昇に加え、エネルギー価格の上昇もあって、非常に高い伸びとなった。ちなみにこの前期比+0.8%という上昇率は、野菜価格高騰による消費への悪影響が強調された18年1-3月期の+0.6%を上回る。こうした物価上昇による購買力の低下は、家計にとって大きな痛手となったものと思われる。特に、野菜への支出比率が高い高齢者層への影響は大きいだろう。

○9月の全国は+1%乗せの可能性大

本日の東京都区部の結果を踏まえると、9月の全国CPIコアも前年比+1.0%と、18年2月以来の1%乗せになる可能性が高いだろう。エネルギー、食料などが押し上げ要因になる見込みだ。もっとも、そのままCPIコアの上昇率が拡大していく可能性は低いとみている。エネルギー価格のプラス

寄与は高止まりが予想され、引き続きCPIコアの上昇を支える一方、エネルギー以外の部分については前述のとおり改善が鈍い状況であり、先行きも目だって伸びを高めるには至らないだろう。当面、CPIコアは前年比で+1.0%程度の推移が続くと予想している。



（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

（注）消費税率引き上げの影響は除いている

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

